

10月1日 日本酒の日

1978年、日本酒造組合中央会が若者の日本酒離れを食い止める目的で制定しました。

漢字の「酒」のつくり「酉」は酒壺を表す象形文字で、古代にさかのぼると下のほうがすぼんだ酒を熟成させるための酒壺の形になります。もとは「酉」だけで酒を意味していましたが、後の液体に表す“サンズイ”がついて今の酒という字になったそうです。

この“酉”は、十二支の中の10番目の“酉”としても使われています。酉の月は10月の新穀の実る月です。その穫り入れた新穀を使い、酒造りを一斉に始めた月なので「酒の月」とされました。

かつて「酒造年度」が10月1日（現在では7月1日）から始ることから、酒に関係の深いこの日を清酒をPRする「日本酒の日」と決めました。

古来より日本酒は、「米の水であるから栄養がある」とも言われてきました。米の栄養素が日本酒にたくさん含まれており、アミノ酸やビタミンを始めとして100種類以上の微量物質が存在しています。これが日本酒独特の風味を醸し出します。

他に肝臓によいペプチドといった新陳代謝を高めるものや、体に必要な微量栄養素であるミネラルも豊富で、特にアミノ酸はワインの10～20倍もあるといわれています。

日本酒のアミノ酸組成を細かく分析すると比較的多く含まれているのはグルタミン酸、アラニン、ロイシン、アルギニンなどです。グルタミン酸は脳の機能、アラニンは免疫の機能をそれぞれ高めるといわれています。

日本酒なら健康効果も期待できるほどで、程度な飲酒はまさに「百薬の長」といわれるゆえんです。

日本酒にはアスパラギン、スレオニン、セリン、グルタミン、アラニン、バリン、イソロイシン、ロイシン、チロシン、フェニルアラニン、アルギニン、ヒスチジンなどのアミノ酸がビールやワインよりも豊富に含まれています。

アミノ酸の豊富な日本酒は、和食によく合います。植物性の蛋白質から分解される日本酒のアミノ酸と刺身や焼き魚などの動物性の蛋白質から分解されるアミノ酸が口の中で出会うことで、より優れた旨みへと変化します。

つまり、魚介類や熟成した肉類を食べる時にアミノ酸豊富な日本酒をいっしょに飲むことで料理がより一層引き立つのです。

日本酒には、本醸造、吟醸 純米 などありますが、純米酒以外は、醸造アルコール（トウキビなどを原料とした蒸留酒、いわゆる安物の焼酎）を添加しても構わないことになっているので健康効果は薄いのですね。

飲酒、喫煙が生活習慣病に大いに影響することは知られていますが、お酒もタバコも作り方、嗜み方に問題があるように思います。純米酒を美味しい食事とゆっくり楽しむ・・・悪くないと思うんですけどね。

10月2日 1961年 大鵬、柏戸がそろって横綱に昇進しました。

大鵬は21歳4カ月、柏戸は22歳11カ月の若さでした。2人は数々の名勝負を展開し「柏鵬時代」と呼ばれる相撲の黄金時代を築きました。

ところで、大鵬と、柏戸はそろって横綱になりましたが、柏戸が47代横綱、大鵬が48代横綱なのは、柏戸の引退が早かったからです。

今年の初め、大鵬こと納谷 幸喜氏が亡くなったことで、久々に「柏鵬時代」という言葉を聞いた気がします。柏戸は、現役時代ケガが多く期待されたほどには活躍できていない印象ですが、大鵬に立ち向かう勇猛果敢な姿には、多くのファンが魅了されたようです。

「巨人、大鵬、玉子焼き」といえば、みんなが好きな最強の取り合わせを言いますが、「大洋、柏戸、水割り」という言葉があったとか、なかったとか……。たまに強いつて感じなのかな？

横綱が東西にいて、場所を盛り上げて欲しいと思う相撲ファンは多いけれども、なかなか巨頭が並びそびえるのは難しいようです。

日馬富士も、いい相撲を取りますが、白鵬には水をあけられることが多いです。日本人の「判官びいき」ではありませんが、負けなしの白鵬より日馬富士を応援したくなります。

大鵬、柏戸も負け知らずの大鵬より、柏戸には男を感じさせる雰囲気があり強すぎないので人気があったそうです。甘い玉子焼きより水割りってわけですね。

10月3日 1971年オーディション番組『スター誕生!』も放送が始まりました。

『スター誕生!』は、1983年9月25日まで12年間放送された、日本テレビ系列の視聴者参加型歌手オーディション番組で「スタ誕」の愛称で知られています。多くの新人アイドル歌手が誕生し、その中には、「中三トリオ」といわれた森昌子、桜田淳子、山口百恵や中森明菜、小泉今日子などがいます。

この時代には、オーディション番組がいくつもあって、フジTVの「君こそスターだ!」文化放送の「スターは君だ!」TV朝日では「あなたをスターに!」、また演歌歌手を多く出した日本TVの「全日本歌謡選手権」なんて番組もありましたね。

中三トリオを仕掛けた堀威夫氏は、後のインタビューで「当時は3分で作れるカップ麺が受けた時代だから、昨日の素人がアイドル、スターになれる番組が受けた」と語っています。

先日、最終回を迎えた「あまちゃん」でも、母親の春子が若いときに「君でもスターだよ!」というオーディション番組に挑戦するくだりが放送されました。劇中では松田聖子、渋谷哲平、ひかる一平なんて名前も出てきました。

また 70 年代前半から 80 年代中盤には、「平凡」と「明星」という芸能界を扱った若者向け 2 大芸能雑誌があって、アイドル全盛期に出版部数もピークを迎えていました。そう言えば、付録にアイドルのポスターと歌本が付いていましたっけ。

一度、アイドルのレコードを買いたいと思ったことがありますが、母親に「あんな下手な歌のレコードを買うのか?」と言われて、すっかり萎えたことがあります。以降、その手のレコードは買ったことがありません。ただ、深夜のラジオ番組に投書して、景品代わりに何枚かレコードをもらった記憶があります。

いわゆるドーナツ盤ってヤツです。でも、どんなレコードだったか覚えてない・・・あんまりヒットした曲じゃなくて、もしかしたら歌手が営業のためにラジオ局に持って回っていたデモ盤だったかも。そんな時代もあったね♪って感じで、記憶もあいまいだけど、まさに青春だったな～

10 月 4 日 1814 年 ジャン＝フランソワ・ミレーが生まれました。

バルビゾン派といわれるフランスの画家で、「晩鐘」、「落穂拾い」をはじめ農民を宗教観あふれる厳粛な雰囲気でも描き、日本でも人気のある作家です。

ミレーはノルマンディー地方のグリュシーという小さな村に 8 人兄弟の長男として生まれました。1933 年、両親の賛同を得て、画家となるための勉強をしに、港町シェルブールに出向きます。その後パリの美術学校へと進み、1840 年にサロン初入選をはたしました。しかし、奨学金が停止されたため、生活は貧しく肖像画や裸体画を描いて糊口を凌いだようです。

1849 年に家族をともなってバルビゾンに移り住んでから、労働者、農民などを多く描くようになりました。バルビゾンは、パリからおよそ 60km 南に位置するフォンテーヌブローの森のはずれにあり、農地や森に恵まれた土地でした。この地で、ミレーは有名な「落ち穂拾い」「晩鐘」などを制作しました。

晩年の 1871 年頃には、パステルで『グレヴィルの断崖』を制作し、現在大原美術館が所蔵しています。この絵はミレーの故郷の風景を描いたもので、少年時代の望郷の念がよく表れていると言われます。この絵は 1922 年児島虎次郎によって蒐集されました。

児島にとってミレーは憧れの画家で東京美術学校時代には下宿していた自分の部屋にミレーの自画像を模写したものを掛け、それを励みに勉強していたそうです。

ミレーの最高のパステル画で、日本人の心情にもよく合う『グレヴィルの断崖』は、大原美術館にとっても名品のひとつであり、蒐集した児島虎次郎の慧眼にも流石と言わざるを得ません。

10 月 5 日 時刻表記念日

1894 年に、日本で初めての本格的な時刻表『汽車汽船旅行案内』が出版されたことに由来します。1872 年に品川・横浜駅間が仮営業を始めると駅の構内などに『鉄道列車出発時刻及賃金表』が貼り出されました。

また正式に新橋・横浜駅間が開業を始めると『時刻表及賃金表』が横浜活版社から発行され、これが日本初、市販

の時刻表となります。1889年7月1日に東海道本線（東京・神戸）が全通する頃には冊子型の時刻表が発行されていました。

『汽車汽船旅行案内』は、福澤諭吉がイギリスの時刻表を元に編集させて、慶応義塾出身の手塚猛昌が庚寅新誌社より発行した定期・月刊時刻表でした。列車の発車時刻や運賃のほか、沿線の案内や紀行文なども掲載されていたそうです。

この時刻表が好評だったので、そのあと各社から似たような月刊時刻表が立て続けに出版されました。100年以上の歴史がある時刻表、最盛期には200万部も発行されたそうです。今は、インターネットなどで調べられることもあってか、15万部程度と激減です。

ところで、この時刻表のもとになるダイヤグラムを作成する仕事を「スジ屋」と呼ぶのですってね。職人的な技が必要とされるのだとか・・・以前にTV番組で見たことがあります。「スジ屋」の腕だけで、列車が混雑もすれば混雑が緩和もするとかで、実際に駅に向いてラッシュ状況を確認しながら、複雑な電車の運行計画を立てるのです。

斜めに交錯するグラフに、1本の線を引いていくことで、列車の運行が可能になるのですが、間違いは許されません。責任重大で緻密で、ひどく地味な仕事です。季節の臨時列車や団体旅行などの貸し切り列車などの運行も、「すじ屋さんの仕事。天皇陛下のお召し列車は、決め事が多いので、通常のダイヤの複雑な網の目をくぐって作成するのは、非常に難しいのだとか。

そうした複雑なダイヤをアリバイにするミステリーといえば、松本清張の「点と線」、西村京太郎の「十津川警部シリーズ」、TVでは「弁護士・高林鮎子」などありますね。

橋爪功演じる慎平が時刻表をシャラシャラとめくり、アリバイの抜け穴となる経路を抜き書きしていくシーンは、とにかく（時刻表マニアじゃないので、よく分からない・・・）「ほっほ〜」と感心するのです。

しかし、発行部数が減って、時刻表というものが一般的でなくなったら・・・こうしたミステリーも存在が危ぶまれます。列車は移動するための手段でなく、車窓の風景や、だんだん周りの人の言葉が変わって行く様子や、人との出会いなど、多くの楽しみがあると思います。

あわただしい日常の暮らしから、ちょっと離れるために、のんびりローカル線の旅を楽しむためにも時刻表は存続してもらわなきゃ。

10月6日 1969年千葉県松戸市役所が、市民の苦情にすぐ対応する「すぐやる課」を設置しました。

当時の松本清市長の発案で、市長直属の部署で緊急的な市民の要望に対応する課として設置されました。

「すぐやらなければならないもので、すぐやり得るものは、すぐにやります」をモットーに、役所の縦割り行政では対応できない仕事にすぐ出勤してすぐに処理をし市民の好評を得ました。

その後、「すぐやる課」のコンセプトは、全国315の自治体で採用されるほど広まりました。また、この松本清

さんはドラッグストア「マツモトキヨシ」の創業者でもあります。

そう言えば、この「すぐやる課」にヒントを得たドラマもありました。「すぐやる一家青春記」で「すぐやる課」の存在を知りました。確か、初代「すぐやる課」の課長臼井銀次郎氏をモデルにしたものだったと思います。

当時は、縦割り行政の弊害で窓口のたらいまわしや要望に時間がかかりすぎることで、市民の不信感をかっていた時代でした。

さて現在の松戸市「すぐやる課」は、どのような仕事をしているのか、そもそも、今でもあるのか？とおもって調べてみましたら、創設当時2名だった課員は今や10名。主な仕事は、側溝の修理、マンホールの蓋の取り換え、道路の補修、動物の死骸の処理、スズメバチの巣の撤去・・・もちろん私有地や個人的なことはやりません。ドラマで見たのと、大差ない仕事のように思いますが・・・

今でもお役所といえば、なかなか手続きが面倒ですが、最近は、窓口に行く前に案内係がいて、「今日はどんな御用でしょうか？」と声をかけてくれることも多いようです。

松本清氏は「私のことをアイデア市長なんて世間はいうけど、金があればアイデアなんて考えませんよ。アイデアは、いわば才覚でありヤリクリです」と言っています。

また、面白いエピソードとしては、選挙の投票率の向上のために、投票整理券の番号をくじで決めようと考えました。自治省では却下された案でしたが、くじにしても投票の公正性が害されることがないと考えて実施したそうです。

ユニークな発想とベタな名づけ・・・成功させるための直球勝負なのですね。

10月7日 ミステリー記念日

ミステリー、つまり推理小説は かつて英語の“Detective Novel (Fiction)”の訳語として探偵小説と呼ばれていましたが、戦後「推理小説」という言葉が作られ一般的になりました。推理小説の先駆者といわれるエドガー・アラン・ポーが亡くなったことにちなみます。1845年に発表された『モルグ街の殺人』が、世界初の推理小説と言われています。

ミステリーとは、殺人・盗難・誘拐・詐欺などの事件や犯罪が起こり、それを解決していく経過を描く小説や映像物などのジャンルのひとつです。逆に、はじめに犯人が事件を起こしているのが分っていて、どこに着眼して解決したかを描く場合もあります。

ミステリーの中にもいくつかの分類があるようで、社会派とか青春ミステリーとかトラベルミステリーとか、ホラーやサスペンス、ハードボイルドも含むことがあるようです。

TVのミステリーを考えても、探偵役はさまざま。刑事はもちろん、検事、弁護士、鑑識官、科捜研、医師、法医学者、税務関係者、葬儀屋、新聞記者、作家、タクシードライバー、女将、町内会長・・・あ！家政婦？！

ところで、ミステリーの歴史を見れば、古くは『千夜一夜物語』の中にも、犯人を突き止めていくお話があります。元来、人間はミステリー好きなのかもしれません。

学生時代には、ミステリーもいろいろ読みました。大御所の横溝正史、江戸川乱歩、松本清張、・・・当時大人気だった赤川次郎、西村京太郎、森村誠一、西村寿行、内田康夫、・・・翻訳ものなら、定番のアガサ・クリステイ、コナン・ドイル、エラリー・クイーン、・・・ちょっと時代が下って、宮部みゆき。

そんな中で一番面白いと思ったのが、天藤真。寡作だったので図書館でもあまり蒐集していませんでした。急に懐かしくなりました。調べれば、アマゾンで何冊もあります。また読んでみようかな。

10月8日 1594年（旧暦 文禄3年8月24日）石川五右衛門が京都三条河原で処刑されました。

石川五右衛門は、安土桃山時代の盗賊で釜茹での刑に処せられたというのは有名な話です。歌舞伎、浄瑠璃、狂言、落語、読本など古くからおなじみなのですが、五右衛門の正確な生い立ちや行状は分かっておらず、近年までその存在すら疑問視されていました。

イエズス会の宣教師の日記などに同名の人物が記載されており、都で暴れまわる盗賊が処刑されたのは確かなようです。でも処刑方法も釜茹でだったのか、釜で焼かれたのか、油で煮られたのか・・・いろいろ説があって、よく分かっていないようです。

石川五右衛門と言えば、金襴襦袢に大百日鬘（月代がボサボサの頭）、大きな煙管を持って「絶景かな、絶景かな。春の宵は値千両とは、小せえ、小せえ。この五右衛門の目からは、値万両」と言う『楼門五三桐』の台詞は歌舞伎を知らなくても、どこかで耳にしたことがあると思います。

そして、有名なのが辞世の句と言われる「石川や 浜の真砂は 尽きるとも 世に盗人の 種は尽きまじ」ですかね～。

TV で演じられた石川五右衛門と言えば、おっちゃん世代なら「黄金の日日」の根津甚八さんでしょう。浅黒く精悍で、ちょっとワルって感じが、いかにも石川五右衛門だったな・・・。

石川五右衛門のお墓は、京都大雲院にあり戒名は「融仙院良岳寿感禅定門」。当時としては社会に貢献した人や信仰のあついに付けられた位の高い戒名だそうです。

とても釜茹でにされた罪人のものとは考えにくいのですが、義賊として、時の権力者・豊臣秀吉に対抗した反体制派の庶民のヒーローとして、後世に付けられたものかもしれません。

今でも、墓石を削り取ってお守りにする人もいるのだとか・・・。良くも悪くも歴史に名を残した五右衛門の功績（？）に魅力を感じ「御利益」にあやかろうとするのですかね。大泥棒は、大金持ちしか狙わないしね～～。

秀吉の朝鮮出兵の頃なので、世の中が不穏で人々に鬱憤がたまっていた時に現れた大泥棒、そして衝撃的な公開処刑は、いろいろな形で語り継がれたということでしょうね。

10月9日 1874年万国郵便連合が発足しました。

それを記念して10月9日は1969年に「UPU（万国郵便連合）の日」となり、1984年に「世界郵便デー」と名前が変わりました。日本は万国郵便連合には、1877年2月に加盟しています。23カ国目（アジアでは初）でした。本部はスイスのベルンに置かれています。現在の加盟国は192カ国です。

万国郵便連合では

- 1 地球上のほぼすべての域から固定料金に近い形で郵便物が送れること。
- 2 国際郵便、国内郵便（内国郵便）がともに同様の扱いがなされること。
- 3 国際郵便料金は、それぞれの国で徴収し、使用すること。

の3点が合意されました。

また、切手を貼った郵便物は、どこの国の切手でも国際的に通用することを定め、国際返信切手券の発行業務を行っています。

ところで「国際返信切手券」は、見たことがありません。この券を送れば、先方の国で航空便の封書一通分の切手と引き換えが出来ます。日本では150円で購入でき、130円分の切手に交換できるそうです。

国際返信切手券のデザインは世界共通であり、表面はフランス語、裏面はドイツ語・英語・アラビア語・中国語・スペイン語・ロシア語が使われているようで、2013年9月から新しいデザインになっています。

偽造を防ぐためか、3～4年でデザインが変わり、引き換えの有効期限もあるようです。

外国に出すものでも、はがきなら70円、封筒に入れたカードなら110円程度で送ることが出来ます。日本国内に送ると、大差ない金額で送ることができるなんて、ちょっと考えれば、すごいこと。EMSにしても、追跡調査が出来ますし届くのも早いです。

今はEメールや格安の国際電話が普及していますから、情報の共有という点では非常に早くて便利ですが、それでも珍しい切手が貼られたはがきや封書が届くと、うれしいものです。

10月10日 マグロの日

1986年日本鯉鮪漁業協同組合連合会がマグロの販売促進のために制定しました。

由来は726年10月10日に山部赤人が聖武天皇のお供で明石地方を旅し、「鮪(しび)突くと 海人の燭(とも)せる いざり火の ほにか出でなむ 我が下思(したも)ひを」などの歌を詠んだことにちなみます。当時は銚子でついでマグロを獲っていたようですね。

今でこそ、高級魚の代表として、大いにもてはやされ、世界中から輸入されているマグロですが、鮮魚として流通しにくかった明治の中頃までは刺身として食べられず「塩まぐろ」や「しょう油漬け」で食べていたそうです。

そのため、マグロ本来の味でなくて、「ネコまたぎ」と言われたほど味気ないものだったそうです。

刺身の人気が出たのは、流通が発達した明治中期以降、そして「トロ」の人気が出たのは昭和 40 年代以降、漁船が大型化し、漁場が拡大されて鮮度の良い氷蔵鮪が刺身として出回り始めてからです。

ところで、日本人のマグロ好きが高じて、今や「世界中のマグロを食い尽くす」と言われるほど！数種類あるマグロのうち（ミナミマグロ、大西洋クロマグロ、メバチマグロ）の 3 種が絶滅の危機、（キハダマグロ、ビンチョウマグロ）の 2 種が絶滅危惧に近い状態にあるとされています。

そこで「中西部太平洋まぐろ類委員会」では、2014 年の未成魚（3 歳以下）の漁獲量を 02～04 年の平均値から 15%以上削減することで大筋合意していますが・・・。

マグロの養殖は、マグロが長距離を遊泳すること、成熟に時間が掛かること、小さな傷が死につながるほど皮膚が弱いことなどから、特に完全養殖は難しいとされていましたが、2002 年に近畿大学水産研究所が 30 年余かけて世界で初めてクロマグロの完全養殖に成功し、商業化に大いに期待されています。

また、岡山理科大学では「好適環境水」でマグロを養殖することに成功しています。日本人の好きなマグロは、国内産で賄えるようになるといいですね・・・。

10 月 11 日 1871 年ハインリッヒ・シュリーマンが古代都市トロイアの発掘調査を開始しました。

シュリーマンは、前年より私費を投じて発掘調査を始めていましたが、正式に許可を得て続行しました。

シュリーマンがトロイの発掘を志したのは、子供の頃ホメロスの『イーリアス』を読みその遺跡を探そうと考えたと自身の著作『古代への情熱』に記しています。当時、トロイア戦争はホメロスの創作で、人々は「トロイアは架空の都市」と考えていたと書いていますが、シュリーマンが発掘する以前にもトロイ遺跡の発掘を試みた人がいることから、この話は「眉唾」。

武器を含む貿易商として、巨額な財を成したシュリーマンはまず世界旅行をしています。1865 年には幕末の日本にも立ち寄っています。そしてその後にトロイの遺跡を発掘することを思いつきました。

とにかくシュリーマンと言えば、功名心が先立って遺跡を荒らし、お金儲けをしたと、よくない評判もあります。しかし発掘のための巨費を捻出したり、調査のために数ヶ国語を学んだりと大変な努力の人であったのは確かなようです。

トロイの遺跡は現在のトルコ北西部、ダーダネルス海峡以南にあり、1998 年に世界遺産に登録されています。ギリシャ神話にはイリオスという名前の都市として登場します。

特にトロイ戦争で、大きな木馬に隠れたギリシャ兵が、トロイを陥落させる場所は有名です。「トロイの木馬」は内通者や巧妙に相手を陥れる罠のことを言ったり、コンピューターウイルスの名前だったりするので、批判的な戦略と思われているのでしょうか。

しかしながら、ギリシャ神話の中でも印象的な場面のひとつであることに違いありません。喧嘩をする人間くさい神々と、ちょっと恐ろしいシーンも多くて、子供の頃読んだときには好きになれなかったお話ですが、「トロイの木馬」のくだりだけは興奮したことを覚えています。

9期に分けられるというトロイの歴史ですが、発掘状況が悪かったため詳細は分らずじまいのようです。「シュリーマンが余計なことをしやがって・・・」との歴史学者の言い分も一理。そして彼が考古学者として評価されない所以なのですね。

10月12日 豆乳の日

ブラウンにもおいてある豆乳。今日は豆乳の日です。日本豆乳協会によって制定されました。体育の日のある10月の10（とお）+2（にゅう）=12日のゴロあわせだそうです。

豆乳は体にいいみたいだけど、飲みにくくて・・・という方に朗報！！豆乳と牛乳のハーフ&ハーフをお試しください。よく、豆乳と牛乳の栄養素の違いは？とかどちらが体にいいのか？と、とにかく対比されてしまう豆乳と牛乳ですが、「どちらか」ではなく「どちらも」をお奨めします。

日本では、最近少しずつ豆乳の消費量が増えていますが、人口一人当たりの消費量を比べれば、タイ、マレーシア、韓国など日本の2倍以上の愛飲率です。カナダ、スペイン、オーストラリアなども豆乳の消費量が多い国です。

中国は、いろいろな豆乳の摂取方法があり、大量に消費する国ですが、なにせ人口が多いので一人当たりで換算すると、そうでもないようですね。

豆乳は動脈硬化、骨粗しょう症、高血糖、更年期障害、一部のがん予防などに効果的だといわれています。大量に飲むのではなく、毎日少しずつ摂取するのがいいのではないかと思います。

ブラウンで提供している「まるごと豆乳」は、大豆まるごと、微粉碎にしたものから作っているので、繊維質とカリウムが他の豆乳より豊富です。かなり濃いので「体によさそう感」がメチャメチャあります。

しかも、岡山県産の「トヨシロメ」を吉備中央町にある製粉工場で粉碎しているので品質も安心、地産地消とくれば地域振興にも貢献することになります。

おっちゃんの「身土不二」の考えにもふさわしい商品と考えています。

そろそろ体をいたわらなきゃ・・・と感じている、お父さん、お母さん、いかがですか。

10月13日 建築家 辰野金吾が生まれました。（嘉永7年8月22日）

辰野金吾氏は昨年改修工事が終わった東京駅の建築家として知られています。

1873年に工部省工学寮（現在の東大工学部）に第一回生として入学し、1880年～83年には英国に留学しました。この留学は主席で卒業したものに与えられたものです。

その後、工部大学校（東京大学）の教授になり多くの後進を育成しながら、設計事務所を開設して多くの建築物の設計を手がけました。辰野金吾は帝国大学工科大学学長、建築学会会長を歴任し、設計の頑丈さから「辰野堅固」と呼ばれたそうです

東京駅のほかの代表作に日本銀行本店(1896年)、大阪市中央公会堂（1918年）、奈良ホテル（1909年）、朝鮮銀行（ソウル、現・韓国銀行 1912年）など多数あり、重要文化財に指定されているものも少なくありません。

ところで、10月から始まったNHKの朝ドラ「ごちそうさん」では、主人公の夫となる青年が帝大で建築を勉強しています。時代は、関東大震災の前年1922年ですから、1919年に亡くなっている辰野金吾はすでに帝大にいませんが、当時の人々が建築に対してどんなことを考えていたのか、そしてどんな建築物を求めていたのか描かれるかもしれません。

ドラマそのものは、美味しいものを食べるシーンが多いのですが、ちょっと建築について着目するのもありかな～。

10月14日 1958年東京タワーが竣工しました。

着工したのは、1957年6月29日、最後のアンテナ80mを取り付けて、竣工したのが10月14日、その後12月23日に完成式が行われオープンしました。正式名称は「日本電波塔」、東京タワーというのは愛称です。

高さは333m（より正確には332.6m）、竣工当時は、フランス・パリのエッフェル塔の312m（2000年現在は324m）より高く、自立式鉄塔としては世界最高でした。

関東一円、半径100km圏内に電波を送るために必要な高さや、耐震、耐火、耐風などの安全な構造、そして建築技術を鑑みて、333mが決定されました。設計者は、「塔博士」といわれた内藤多仲で、当時は耐震構造の第一人者でした。

総工費は約30億円かかっていますが、展望台を設けて集客することで建設費を10年で回収できると考えました。

1959年には来塔者数、年間約520万人を数えました。また、翌年には1日に4万人が来塔する記録があります。2009年には来塔者1億6千万人を記録しました。

ALWAYS 三丁目の夕日では、徐々に高くなっていく建設中の東京タワーが描かれており、当時の人々がいかに、この塔の完成を心待ちにしていたかがよく分かります。

ところで、設計者の内藤多仲は1911年に帝国大学を卒業しており、在学中は佐野利器に師事していますが、この佐野利器は、辰野金吾に学んでいます。

内藤多仲の設計した「タワー六兄弟」と呼ばれるのが、名古屋テレビ塔、通天閣（2代目）、別府タワー、さっ

ぼろテレビ塔、東京タワー、博多ポートタワーで、そのどれもが都市の中心部に位置し、展望台をもつ共通点があります。

電波塔としての役割は、東京スカイツリーに一部が引き継がれましたが、いまでも東京タワーはバックアップとして重要な役割を担っています。また大気汚染の調査のために風向、風速、硫黄酸化物などの測定を行っています。

東京タワーは、高さではスカイツリーに日本一の座こそ譲りましたが、戦後の復興の象徴であり、人々の希望と憧れの的であったことはいずれ伝説となり人々に語り継がれることでしょう。

10月15日 1975年広島東洋カープがリーグ初優勝をきめました。

市民球団として1950年に創設され、苦節26年目でこの年初優勝を決めました。

1974年最下位に沈んだカープは1975年には球団初の外国人監督ジョー・ルーツを迎えましたが、開幕早々に監督を辞任し、古葉竹識がコーチから監督に就任するという波乱の幕開けでした。

またこの年「野球に対する情熱を前面に出そう」というスローガンのもとに、帽子・ヘルメットの色が紺色から赤に変えています。ゼッケンやアンダーシャツ、ストッキングが赤になったのは、その後1977年のことです。今や「赤ヘル」は広島の別名になっていますね。

山本浩二や衣笠祥雄の強打者、最多勝の外木場義郎、盗塁王の大下剛史らの活躍で、まさしく「赤ヘル軍団旋風」を巻き起こしました。今までにリーグ優勝は6回、そのうち日本一は3回あります。

広島の選手といえば、前出の山本や衣笠、高橋、小早川、投手なら山根、北別府、大野、1979年の日本一の時の江夏、球団初の新人賞の津田、捕手は「ささやき達っあん」こと達川、個性的な選手が多かった時代、やっぱり強かったです。

そして、今年は、16年ぶりのAクラスと球団史上初のクライマックスシリーズ進出が決定しましたね。

カープというチームは、なかなか読めないところがあります。う〜ん、それはハラハラしながら応援しているからかな？クライマックス ファイナルステージ、そして日本シリーズ、もっともっと期待させて欲しいですが。

10月16日 1799年 からくり儀右衛門こと田中久重が生まれました。(寛政11年9月18日)

「東洋のエジソン」「からくり儀右衛門」と呼ばれ活躍した日本の発明家で、後に東芝となる芝浦製作所の前身である田中製造所を創設しました。

わずか8歳の時に、開かずの硯を作って大人を驚かせたり、当時流行していたからくり人形の新しい仕掛けを次々と考案して大評判となったりと子供の頃から、才能を発揮していました。

儀右衛門少年は、鼈甲細工の職人だった父親の高度な技能、手業を目の当たりにして、精密な細工や技術がい

かなるものかを知らず知らずに身につけていったようです。そして、からくりが人々を驚かせたり、喜ばせたりすることが、彼の意欲を大いにかき立てました。

佐賀藩では、蒸気機関車や蒸気船の模型を作成し、国産初の蒸気船である「凌風丸」建造の中心メンバーとなったり、久留米藩では、技術顧問として藩陸軍の製砲事業に関わり、先端兵器であるアームストロング砲を完成させたりしました。

また齢 73 にして、東京に出て電信機づくりに着手、ほどなくヘンリ電信機を作り上げ、政府から注文が続々と舞い込んだそうです。その時の工場の名前が「珍器製造所」。好奇心旺盛で、珍しいものや人の驚くもの、役に立つもの、何でも作ってしまおうというわけです。

田中久重の作ったもの・・・弓曳童子、童子盃台、無尽灯、万年時計〔万年自鳴鐘〕、製氷機、ネジ切りゲージ、自転車、精米機、写真機、昇水機、改良かまど、旋盤楕円削り機、煙草切機、醤油搾取機械、種油搾取機、報時機など、もうなんでも、かんでもです。

でも、こうしてリストが残っているということは、最新式であったり、便利に使えるものだったりしたのだと思います。久重の技術者としての自負、飽くなき探究心は、その後の日本の産業の発展に大きな種を蒔いたといえるでしょう。

10月17日 1943年タイとビルマを結ぶ泰緬鉄道が完成しました。

泰緬（たいめん）鉄道といえば、タイのバンコクとビルマ（ミャンマー）のラングーン（ヤンゴン）をつなぐ鉄道で、海上輸送の危険を避けてビルマ戦線の物資輸送のためのルートを確保するために日本軍が建設を計画したものです。

ビルマを植民地支配していたイギリスが一度は計画をしたものの、地形が複雑なために建設を断念していたもので、実際の建設は過酷を極めました。

日本兵をはじめ、連合軍の捕虜、ビルマ人、タイ人、マレーシア人、インドネシア人など建設に携わった約 40 万人のうち 12 万人が亡くなったといわれる、まさに「死の鉄道」として知られています。

1957 年公開の英・米合作の映画「戦場にかける橋」は第 30 回アカデミー賞作品賞を受賞していますが、この泰緬鉄道の建設に駆り出された捕虜たちの話です。主題歌の「クワイ河マーチ」（ボギー大佐）は軽快なマーチで、よく耳にしますが映画の内容はなかなかシビアなのです。

この泰緬鉄道やクワイ河捕虜収容所をモチーフにした 2002 年のアメリカ映画「To End All Wars」というのがあります。日本では公開されませんでした。捕虜となって泰緬鉄道の建設作業を強いられたスコットランド兵、アーネスト・ゴードンの体験を綴った『クワイ河収容所』を映画化したものです。

戦争という極限の状況にありながら、捕虜たちが「ジャングル大学」を作って、文学、哲学、芸術、聖書などを学び、人間の尊厳や隣人愛、犠牲愛に目覚めていくさまが描かれています。

この中に通訳のナガセタカシという人が出てきますが、モデルとなったのが岡山出身の永瀬隆氏といわれます。永瀬氏は1964年から毎年タイを訪問し、亡くなった連合国兵士やアジア人兵士労働者の慰霊をしました。

1986年には、タイにて『クワイ河平和寺院』を建立し、タイの青少年に奨学金を授与する目的で『クワイ河平和基金』を設立しています。2011年に亡くなるまで、精力的にタイとの友好に努めたようです。

永瀬氏の体験した悲惨な戦争と目の当たりにした崇高な人々と非情な人々、さまざまな思いで彼が戦後に謝罪と鎮魂の道を選び、自ら平和の架け橋となろうとしたのですね。

10月18日 1958年日本でフラフープの販売が始まりました。

1957年アメリカの玩具メーカーWham-Oがフープを売り出し、大人気になりました。その後日本にも輸入されました。

価格は大人向けが270円で子供向けが200円。1ヶ月で80万本が売れて一大ブームを起こしました。販売される店には行列が出来、多くの会社が我も我もとフラフープを発売しましたが、中にはホースをつなぎ合わせただけの物を安く売る所もあったそうです。

美容と健康によいと宣伝されたフラフープは子供だけでなく大人も夢中になり、競技会なども行われました。

ところが11月には、胃穿孔で重態になったとか腸捻転になったとかと健康に悪影響があるのではないかといわれ、一気にブームが沈静化しました。わずか40日足らずのブームでした。もちろん、今ではフラフープと腸捻転には、何の因果関係もないと言われています。

フラフープは、その昔、子供たちがツタをワッカにしたものを回して遊んでいたのが始まりと考えられています。古代ギリシャでは、体重を落とすために使われていたとか。18世紀前半にはハワイを訪れた船乗りが、腰を振るフラダンスとフラフープを回す姿が似ているということで、「フラ」という言葉を「フープ」に付け加え、フラフープという言葉を作ったと言われています。

最近では、ダイエットに効果的な有酸素運動のひとつとしてフラフープを取り入れているところがあります。

正しい(?)フラフープの回し方は、足を前後に開いて、腰の位置にフープを構え、腹筋と背筋を使って回します。腰をむやみに回したり振ったりするのはよくありません。上半身は、動かさないようにするのがよいようです。

フラフープを正しく回せば、30分で300キロカロリーのエネルギー消費に値するのだとか。1日5分でも毎日続ければ、腹筋、背筋を鍛えることが出来、骨盤矯正の働きもあるため、腰痛改善・便秘解消などの効果も期待できるそうです。 う〜ん、ホンマかな?お試しになって、効果がありましたらお知らせください〜。

10月19日 1956年 日ソ共同宣言が調印され、国交が回復しました。

日本首相鳩山一郎とソ連首相ニコライ・ブルガーニンがモスクワで署名し、国会承認をへて、同年12月12日に

発効しました。

正式には「日本国とソヴィエト社会主義共和国連邦との共同宣言」と言います。

1941年に締結された「日ソ中立条約」が1945年8月に、ソ連が一方的に破棄を通告したことで、両国の国交が断絶していました。

戦後になって1948年には民間貿易協定が結ばれていましたが、外交は行われていませんでした。1951年のサンフランシスコ平和条約でもソ連は調印しておらず、両国では戦争状態が続いた状態になっていました。

この共同宣言によって、日本とソ連の終戦が認められ、国交が回復しましたが、激しく意見が対立した領土問題は棚上げにされ、平和条約締結交渉を行い、条約締結後にソ連は日本へ歯舞群島と色丹島を引き渡すと決められました。

また日本が国際連合に加盟するための支持も約束されたので、2ヵ月後の1956年12月18日に国際連合に加盟しています。

相変わらず、微妙な日本とロシアの関係ですが、少し改善の兆しが、ある・・・のか？少なくとも歯舞群島と色丹島が返還されれば、進展があったと見るべきなのですが。

とかく離島といえば、人口は減少し、インフラ整備も後手に回り、限界集落となっていく印象があります。返還を要求する以上、ちゃんと整備し治めなくてはならない気がします。もちろん、他の島でも同じです。

10月20日 新聞広告の日

1974年に日本新聞協会によって制定されました。

新聞週間は、毎年10月15日から1週間行われ、期間中の20日を新聞広告の日にしています。新聞広告の役割や意義についてPRしたり、新聞広告賞などの授賞式が行われたりします。

新聞は新聞縮刷版として多くの図書館で保存されますし、広告は世相を表すものとして研究対象になっています。また新聞広告は掲載費が高いことや、紙面の保存が容易なことから、他の広告に比べ消費者の信頼が高い傾向があります。

広告なのか、記事なのか判別しにくい場合もあるのに、新聞に掲載されたということだけで信用されることもあるようです。広告ですから、何かを売るためだったり、イベントの告知であったりするのですが、時に広告主の感動的なメッセージが発せられるときがあります。

図書館で保存されることを考えれば、新聞に広告を掲載するということは、歴史にメッセージを刻むことと考えられますね。

小学校の夏休み、1ヶ月間新聞の広告の面積と数を調べたことがあります。何十年も前のことで、記憶もおぼろ

ですが、夏のことで清涼飲料水やビールの1面広告があったと思います。

また、当時まだ高嶺の花だった自家用車や家電品の広告も大きく載っていた気がします。そして今はほとんど見かけない求人募集の広告が、とてもたくさんあったことも覚えています。

新聞の購読率自体が低下の一途ですが、新聞ならではの気の利いた広告は、どんどん発信して欲しいですね。

10月21日 1879年 トーマス・エジソンがフィラメントを用いた白熱電球の一般公開をしました。

すでに、白熱灯はジョセフ・スワンが発明しイギリスでの特許を取得していました。はじめは炭化した紙製のフィラメントを用いていましたが、後に木綿糸を苛性ソーダで処理して炭化させたフィラメントを開発しました。この電球は40時間灯ったそうです。

エジソンは、実用に耐える電球を開発するために、試したフィラメントの素材は6000種以上とされています。

ある時、日本からのお土産として研究所にあった扇子を見つけ、その骨を使って電球を試作してみたところ、電球の寿命は飛躍的に延びました。

さっそくエジソンは「究極の竹」を求め世界中に研究員を派遣し、その中の一人探検家ウィリアム・H・ムーアは中国を経て日本へとやって来ました。

京都を訪れた際、当時の榎村正直京都府知事から竹の名産地であった八幡の「八幡竹」を紹介され、他所の竹と共にエジソンのもとへと送りました。その竹が京都・男山周辺の真竹で、この竹を使用した電球は何と平均1,000時間以上も輝き続けたそうです。

エジソンはフィラメントに京都の竹を使って電球を改良し、電灯の事業化に成功しました。電気が普及していったのは、エジソンによって配電システムが構築され、トースターや電気アイロンなどの電気製品が発明された功績が大きいと言えます。

1934年には石清水八幡宮境内の隣に「エジソン記念碑」が建立されました。その後1958年に境内に記念碑が移転され、さらに記念碑建立50年に当たる1984年10月18日には、デザインを一新し建て替えられました。

また石清水八幡宮がある京都府八幡市はエジソンの生誕地であるミランと友好都市になっているそうです。

榎村正直の名前を意外なところで聞くことになりましたね。「八重の桜」で高嶋政宏さんが演じています。ムーアがニューヨークを発ったのが1880年、榎村は京都を去ったのが1881年。そのころエジソンがフィラメントの素材をいろいろ試していたのですね。

10月22日 パラシュートの日

1797年フランスのアンドレ＝ジャック・ガルヌランが、高度約2,400メートルから絹製のパラシュートで飛び降りたことに由来します。

パラシュートのようなものは、太古からあったようです。それはそうでしょう。何か羽のようなものがあれば、空を飛べるんじゃないかなんて誰でも思いつくことです。

レオナルド・ダ・ヴィンチも 1485 年ごろパラシュートのようなものをスケッチしています。1617 年にはファウスト・ヴランチッチがダ・ヴィンチのパラシュートを作成し実験を行っています。

しかし当時の人々にパラシュートは必要がなかったのです。パラシュートが脚光を浴びるようになったのは、1783 年熱気球の飛行が成功してからです。

フランス人のルノルマンがパラシュートを再発明しパラシュートという名前をつけました。2 年後の 1785 年にはブランシャールがパラシュートを使って熱気球から安全に飛び降りられることを証明し、1797 年にはガルヌランが新しい絹製のパラシュートで降下を行いました。

その後ベンジャミン・フランクリンは、「一万人の兵士が空から降下してきたら、相当な驚異になる」と軍事利用を思いつきました。いわゆるパラシュート部隊とか落下傘部隊のことです。

落下傘部隊といえば、インドネシアでは日本のバレンバン落下傘部隊がオランダ軍を駆逐し、神話が現実となったと大歓迎を受けたことがあります。

現在国内で唯一の落下傘部隊は陸上自衛隊第 1 空挺団（千葉県船橋市）です。航空自衛隊の輸送機から落下傘で降下したり、陸上自衛隊のヘリコプターで空挺作戦を展開したりする任務をもつ部隊で、厳しい訓練が行われているそうです。近年増えているテロやゲリラに対処するために注目されています。

こうした有事でのパラシュートではなく、もっと身近なのはスカイダイビングをした最後に開くパラシュートがいいですね。スカイダイビングは、ちょっと怖そうですが気持ちがいいかもしれません。

ま、おっちゃんの場合は子供の頃オモリをつけて空に投げ上げた落下傘が楽しかったですけどね……。ところで、沢田研二はなんでパラシュートを背負っていたのかな？

10 月 23 日 1981 年写真週刊誌『フォーカス』が創刊されました。

『FOCUS』は、「写真で時代を読む」をキャッチフレーズに新潮社から創刊された写真週刊誌で、創刊当初は有名写真家を使った芸術性の高い雑誌を目指しました。

しかし今ひとつ販売部数が低迷したため、張り込みや突撃取材を行い、いわゆる写真週刊誌の草分けとなりました。

新潮社は、社のモットーである丹念な取材と張り込み取材を展開し、有名人やタレントの密会写真を掲載したり、政治的な事件や災害、事故などの多くのスクープを取ったりして人気が出ました。

一枚の写真ですべてを語る「百聞は一見にしかず」を実践し、写真報道の新しいリアリズムを追求することで、それまでのジャーナリズムの写真のあり方に革命的な変化をもたらしました。

販売部数はピーク時に毎週 200 万部を突破し、「フォーカスされる」とか「フォーカス現象」などの流行語が出来るほどの一大ブームを作りました。

しかし、類似の写真週刊誌が発行されたことや、1986 年の「フライデー事件」（ビートたけしが講談社を襲撃した事件）以降、写真週刊誌のイメージが急落し読者が減少していきました。

1992 年を境に毎月赤字になり始め 2001 年 8 月 7 日発売の 1001 号で休刊になりました。その後、2002 年から 2004 年まで年 1 回、「週刊新潮」の増刊という形で発行されました。

そして 2011 年 4 月、東日本大震災を題材に、1 回だけの限定で復刊しています。

日常で、頻繁に目にするのは新聞の写真ですが、たいていは記事の添え物程度にしか感じませんが、感動的な報道写真があるのも事実です。

切り取られた場面の一つが、必ずしも真実ではないことも分っていますが、百聞は一見にしかずということもあります。写真に限らず、報道というものを、正しく受け取れるように、広い視野を持ちたいものです。

フォーカスの休刊は、「面白い時代がつくった面白い写真雑誌が命を終えた」ということ・・・新潮社の「フォーカス休刊のお知らせ」から引用した言葉です。

10 月 24 日 1790 年三色旗がフランス海軍旗として制定されました。

1790 年といえば、1789 年にフランス革命が起き、1793 年にルイ 16 世とマリー・アントワネットが処刑された激動の時代です。そのときに革命の象徴として決められたものです。

三色旗（トリコロール）は、多くの国で採用されているデザインですが、もっとも古いといわれるのは、オランダの国旗。フランスの国旗を 90 度回転させたような、同じ配色を採用しています。

青は自由、白は平等、赤は博愛・友愛を象徴しているといわれており、そのうちの赤と青は、国民軍司令官ラファイエットの率いる、フランス革命軍が付けた帽章の色、白についてはブルボン朝の象徴である白百合に由来するのだとか。

ラファイエットは、「市民と王家が協力して新しい国を作るべき」と考え、帽章に王家の色である白が加えそうです。王政は 1791 年に廃止されましたが、この 3 色を使った三色旗は国民軍のシンボルになりました。

矢車草の青、マーガレットの白、ひなげしの赤と表されています。また、制定当初は、赤と青の配置が現在とは逆になっていました。

革命の象徴としてのフランス国旗は、その後いくつかの国に影響を与えました。ルーマニア、イタリア、ベルギー、チャド、ギニア、メキシコなどです。特に、隣国のイタリアの国旗は、イタリア統一運動のシンボルとしてフランス旗を意識して用いられたもので、1948 年に正式な国旗に制定されました。

三色に塗り分けられた国旗は少なくありませんが、歴史を調べれば「革命」に由来するものが多いようです。

似ている国旗には、何かつながりがあるかもしれません。覚えにくい国旗も歴史と一緒に覚えれば分かりやすいの
でしょう。

10月25日 1881年 パブロ・ピカソが生まれました。

絵画や美術に造詣がない人でも、ピカソの名前と作品のひとつやふたつは、知っているでしょう。何が描かれて
いるか分からない絵なのに、その迫力や画期的な作風に感銘を受ける人も少なくなく、まさに、ピカソは天才
の代名詞です。

ピカソの名前が長いことは有名です。パブロ・ディエゴ・ホセ・フランシスコ・デ・パウラ・ホアン・ネポ
ムセーノ・マリーア・デ・ロス・レメディオス・クリスピーン・クリスピーアーノ・デ・ラ・サンティシマ・ト
リニダー・ルイス・イ・ピカソ。

ルイスが父方の姓で、ピカソが母方の姓です。ルイスはスペインではありふれた姓で、ピカソは珍しいそうで
す。そしてこうした長い名前はスペインのマラガでは当たり前ののだとか。

父親はサン・テルモ工芸学校の美術教師で、ピカソが7歳のときから絵の教育を施しました。そして13歳にな
った時、息子に追い越されたと思い絵の道具を息子に譲り自分は描くことをやめたそうです。

また、生涯におよそ1万3500点の油絵と素描、10万点の版画、3万4000点の挿絵、300点の彫刻と陶器を制
作した最も多作な美術家であると『ギネスブック』に載っています。

2004年のサザビーズの競売で、「パイプを持つ少年」が史上最高額の1億400万ドル(当時の為替で約118億
円)の値がつけました。

こんな話があります。ピカソは日常生活の小額の支払いでも好んで小切手を使っていたそうです。なぜなら、
有名なピカソのサインが入った小切手をもらった商店主たちは、喜んでその小切手を部屋に飾ったり、タンス
にしまったりして換金することがなかったからです。

また、ボルドー地方にある有名シャトーの1本5万円は下らない高級ワインの1973年モノのラベルは、ピカソ
がデザインしました。そして報酬はお金でなくワインで支払われたそうです。ピカソの描いたラベルの評判が
高ければ、ワインの価値も高くなるというわけです。

ピカソの言葉に、「昔、母は私にこう言った。お前が軍人になれば、将軍となるでしょう。修道士になれば、法
王となるでしょう。そして私は画家となり、ピカソとなった」

てっぺんを目指して、ピカソという唯一のポジションを得たということなのでしょうかね。

10月26日 デニムの日

10 (テン) 2 (ニ) 6 (ム) の語呂合わせで、世界中で親しまれているデニム製品の素晴らしさをより多くの人に知ってもらう目的で岡山デニム協会が 2013 年制定しました。

岡山デニム協会は県内のデニム・ジーンズを国内外に PR するために製造販売社 6 社で昨年 11 月 27 日に発足しました。現在 9 社に増え、東京はもとよりパリでも展示商談会を開く活躍ぶりです。

会のキャッチフレーズは「岡山ジーンズを世界の岡山ジーンズへ」。海外の人に『ジーンズといえど?』と聞いたら『日本の岡山だ』と言われるのが最終的な目標だそうです。日本人ならではの丁寧な仕事と品質で、必ずや世界でも評価されるに違いありませんね。

国産ジーンズの発祥の地といわれる倉敷児島、また織物・デニム生地の本場としての井原市、日本のジーンズ産業の拠点となるには、さかのぼること 1583 年戦国時代の干拓事業から始まります。

塩分の残る干拓地は稲作には不向きで、代わりに綿花の栽培が行われました。岡山の繊維産業は江戸、明治、大正と発展していきました。大正から昭和にかけて学生服の生産が盛んになり、全国のほとんどを児島近隣で作っていたようです。

戦後、学生服の販売が伸び悩んでいたところ、米軍が残っていたジーンズなどの中古衣料品に人気が集まっていたことをヒントに、ジーンズの生産を手がけるようになったそうです。

徳島の藍染、広島の手織と、良質なジーンズを作るために必要な伝統技術が近隣にありました。藍染めの技術は、ジーンズのフィニッシュ工程である染め・洗い加工に、「かすり」技術はダメージ加工、ヴィンテージ加工などに応用されました。

地域産業の集積が、まさに世界に発信しようとしています。パリの展示商談会では倉敷市のバックアップも大きかったようで、ニュースや特集でも取り上げられていました。今後の活躍を楽しみにしたいと思います。

今日、明日は児島の繊維まつりです。何か、素敵なジーンズないかな・・・ちょっと気になるおっちゃんです。

10 月 27 日 文字・活字文化の日

2005 年「文字・活字文化振興法」により制定され、文字・活字文化（出版）への理解や関心を国民の間に広めることを目的としています。読書週間の初日を文字・活字文化の日として定めたもので、今日から 11 月 9 日まで「文化の日」を中心に 2 週間が読書週間です。

ちなみに今年の標語は「本と旅する 本を旅する」です。この標語で思い出すのは、このブラウンの生地について調べていて知った本 伊丹十三（伊丹一三）の「ヨーロッパ退屈日記」の事です。

1965 年に出版され、外国映画に出演した際のロケ道中をまとめたエッセイですが、まだ外国旅行などなかなかいけない時代のことで若い人に大人気となった本です。商業デザイナーとして河出書房に勤めていたこともあって伊丹自身が、装訂と挿絵も手がけ、イラストレーター、グラフィック・デザイナーとしてもすぐれた手腕を発揮した作品だったそうです。

なぜ、この本が印象に残っているかといえば、進んでいたヨーロッパ文化と今一な日本文化を比較していても嫌味がなく、日本に対する愛を感じると評していた人がいたからです。伊丹十三の映画のイメージとともに、面白そうだと思ったのです。

旅といえば、正宗白鳥の歌とお酒を訪ねるのもいいかもしれない・・・

食べる事に関して、かなりシュールな内容になっている辺見庸の「もの食う人びと」も面白かった・・・

文字離れが言われ始めて久しいのですが、絵本を母のひざで読んでもらった思い出は人格形成に大きく影響するでしょう。また本を読むことで自分の考えをまとめる力がつき、文字を書けば、それを人に伝えることが出来ます。

本を読むことは、紙媒体でなくても可能な時代になりましたが、やっぱり紙の本、絵本の温かみは何物にも代えがたいと思うのです。

10月28日 速記記念日

1882年9月19日、田鎖綱紀（たくさり こうき）が、ピットマン系のグラハム式に基づいて「時事新報」紙上に「日本傍聴記録法」を発表しました。

また、同年10月28日東京の日本橋で第1回講習会を開きました。これを記念して、日本速記協会は10月28日を速記の日と決めました。現在は日本速記協会によって速記への関心を啓発するための催しなどを行っています。

1890年の帝国議会開設と同時に貴衆両院で採用され、今日に至ります。第1回の国会より完全な会議録が残っているのは、先進国の中では日本だけだそうです。

1899年、東京一大阪間に長距離電話が開通すると、「東京時事新報」はいち早く電話速記を採用しました。長文の電報で記事を送るより、電話口で速記者が直接受けるほうがずっと速くて正確、かつ安上がりだったので。間もなく、地方紙、通信社などでもこぞって破格の待遇で速記者を雇用するようになりました。

戦後、速記者の養成所がつくられ、長い間、国会、地方議会、裁判所などで必要とされていた速記者ですが、コンピューターの音声認識や速記用のキーボードの普及で、養成所が閉鎖されていきました。

2004年裁判所速記官、2006年には衆議院、参議院の速記官の養成所がそれぞれ閉鎖されました。最近では音声認識システムを導入して議事録の作成をしています。地方議会では、録音した後テープ起こしをして議事録にしているようです。

古代ローマ時代にはすでに存在していたといわれる速記ですが、コンピューターの発達で衰退していく技術なのでしょうか？人でなければできないこともあるのではないかと思いますのですけれど。

学生時代、授業をもれなく記録できたらいいのにと考えたこともありましたが、速記はなかなか難しくて簡単に習得できるものではありませんでした。

10月29日 1656年エドモンド・ハレーが生まれました。

イギリスの天文学者、地球物理学者、数学者、気象学者、物理学者で、何が有名ってハレー彗星の軌道計算をしたことで、ハレーの名前が彗星に付けられました。ハレー彗星は76年に1度の周期を持ち、近年では1986年に地球に接近しています。

古くから地球には大きな彗星が幾度も接近していて、天文学者たちによって観測されました。しかし、当時は彗星の回帰という考え方がなく彗星が訪れるのは一度きりの現象であり、彗星が一定の軌道を運動していると考えた人はいませんでした。

ハレーは、先駆的な微積分を応用して1682年に観測した大彗星の軌道を検証し、その大彗星が太陽の周囲を長期間かけて周回する太陽系の一員であるということをつき止めました。

そしてこの彗星が76年後に再び戻ってくることを予言しました。ハレー自身は1758年の地球大接近を見ることなく他界しましたが彗星の回帰という現象が初めて観測・実証された画期的成果でした。

ハレーは天文学だけではなく、1693年には終身年金に関する論文を発表し、住民の死亡記録に基づいて、死亡年齢の統計的解析を行ないました。これによってイギリス政府は購入者の年齢に応じた適切な価格で年金サービスを供給することができるようになりました。

ハレーのこの研究は保険数理学の発展に強い影響を及ぼし現在の生命保険制度の理論の礎を作ったとも言われます。他にも水中で長い時間活動できる器具として潜水鐘を考案したり、気象、天文分野に大いに功績を残したりしています。

物理と数学はつながっているから、天文学や統計学も発想は同じといえるのでしょうか。しかし、ひとつの結論を出すまでに、膨大な数字を解析する根気がなければ、何事も成し遂げられないのでしょうか。

10月30日 1890年「教育ニ関スル勅語」（教育勅語）が發布されました。

憲法を發布した明治政府が、翌年この「教育勅語」を發布しています。国を強くするためには、教育が必要だということなのですね。

敗戦後1947年3月31日に施行された教育基本法に代わるまで、日本教育の基本とされました。

奉安殿に奉られた教育勅語と天皇皇后のご真影を、お辞儀して通るのをドラマで見ることがありますが、何とも愚かしい習慣だと思っていました。認知症を患った大叔母が、教育勅語を暗誦し始めてなんだか怖かったこともあります。

だから「教育勅語」も、どんなものであるかさえ知ろうと思ったことはありませんでした。

しかし、ある人から進められて読んでみれば、実に簡潔で分りやすく、人間として当たり前の道徳が説かれていると知りました。

教育基本法は主語がはっきりしませんが、教育勅語は主語がはっきりしています。

国民一人一人は、親に孝養を尽くしましょう。兄弟は仲良くしましょう。夫婦は分を守り仲睦まじく、友達は信じあいましょう・・・と、日本国民（天皇の臣民）として日々努めることが書かれていました。

一方、教育基本法はといえば・・・、

民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。

これは、一体誰に向けて書かれたものでしょう。政治家でしょうか。教師でしょうか。親でしょうか。それとも生徒自身でしょうか。

実の無い会議で、漠然とした目標や達成できそうも無いノルマを課された時みたいではないでしょうか。

どんなアスリートでも、ただただ「頑張れ頑張れ金メダル」といわれても強くなれませんが、一日こなすトレーニングメニューを示されて日々こなす方が、効果がありそうな気がします。

教育勅語の 12、「国に危機があったなら正しい勇気をもって国のため真心を尽くしましょう」は、戦時中には拡大解釈があったかも知れませんが、震災や津波のとき、みんなが支えあったことは、いまだこの教育勅語の精神が日本国民の中にあるといえるのかもかもしれません。

「なぜ勉強するのか」「なぜ仕事をするのか」の答えは、この教育勅語の中にある気がします。

10月31日 ハロウィン

キリスト教の聖人の祝日「万聖節」の前夜祭で、秋の収穫を祝い、悪霊を追い出す祭りです。

語源は、Hallow（神聖な）+een（even=evening）万聖節は All Hallow's で、その前日である事から All Hallow's Eve と呼ばれていたのが、Hallow E'en となり、短縮されて Halloween と呼ばれるようになったそうです。

本来は聖夜の意味で、イギリスでは 10月31日の夜、カボチャをくりぬいた中に蝋燭を立てて（ジャック・オー・ランタン）を作ります。本来はカブで作っていましたが、カブが無かったアメリカ大陸では、代わりにカボチャを使いました。それが今では一般的になりました。

わら人形やムギの穂でさまざまの動物をつくり、仮面をつけたり、仮装したりして行列し、広場のたき火の周

りで歌ったり踊ったりして、最後に人形を燃やします。これは古いケルト人の祭りで、秋の収穫を祝い、悪い自然霊や魔女などを追い出すためと言われています。

ケルト人の暦では10月31日は1年最後の大晦日であり、翌11月1日は新年です。ケルト人にとってこのハロウィンの一晩だけは、地上をうろつく悪霊たちをすべて動物に移しかえて追い出すことができる夜と信じられていました。

この夜若者は女性に変装して村中を歩き、子供たちも「トリック・オア・トリート (Trick or treat. 悪戯かご馳走か)」などと叫んで騒ぎ、御馳走を食べ、お菓子をもらいます。

現在、キリスト教では11月1日は万聖節 (Hallowmass) であり、ハロウィンはその前夜祭です。古いケルトの習俗をキリスト教文化に取り入れた祭りの一つで、アメリカに移ってからは、おもに子供の祭りとしてにぎやかに騒ぎ、御馳走を食べる収穫の祝いの行事となっていきました。